

平成5年3月20日、福島県民の期待を背負って、遥かに連なる那須や安達太良の山々を望む、玉川村と須賀川市にまたがる丘陵地に2千メートルの第三種空港として福島空港が開港されました。

その後、国内の空港需要の伸び、産業経済等の広域化・国際化など、地方空港を取り巻く環境は大きく変化する中で、福島空港については、首都圏に近く、地域的優位性を備えていることから、大型航空機の就航が可能となる滑走路二千五百メートルへの延長事業に取り組み、平成12年7月には平行誘導路を含めた全施設が供用開始の運びとなり、福島空港初のジャンボジェット機が就航しました。

この間、福島空港は、本県や北関東圏を含む空の玄関口として、県民生活の向上、産業経済の活性化などに大きく貢献し、空港の利用者数も堅調に推移し、平成11年6月には、開港以来の悲願であった国際定期路線の福島―上海便、福島―ソウル便が相次いで開設され、平成12年12月末現在で、空港の利用者数は460万人を超えました。

また、福島空港の利用を円滑にするために東北自動車道と磐越自動車道を結ぶ、あぶくま高原道路や空港周辺の一般道の整備が行なわれています。

福島空港は、着々と国際化へのステップを歩み、地域を変革させる起爆剤としての役目を担っています。天空から舞い降りた美しい銀翼は、翼を休めることなく、新しい世紀の中で、県民の希望と期待を乗せ、再び飛び立つ準備をしています。

